

ねじりはちまき

暑中お見舞い申し上げます。

暑い日が続きますが、皆様御揃いでお元気のこととお慶び申し上げます。
また、日頃格別のお引き立てを賜り誠に有難く厚く御礼申し上げますと共に、
今後ともよろしくご指導の程をお願い申し上げます。

土用というとな誰もが一番に思い浮かぶのが『土用の丑の日』の^{うなぎ}鰻です。
暑さ厳しいこの時期には、食欲も落ち夏バテ気味になりがちですが、滋養強壮
に優れた^{うなぎ}鰻は古代から薬用食として重宝されていた食物でした。(丑の^{うなぎ}鰻)に
あやかって、土用には『う』の付く食べ物を食べると夏負けをしないとも言わ
れ梅干しや^{うり}瓜、うどんなど好んで食べられていました。体に良いものをたくさ
ん食べて今の流行病に負けない身体でいたいものです。

皆様のご健康を心から御祈り申し上げます。

幸田 常一

<会社近況>

お世話になっております。こちら事務所です。

梅雨に入り、涼しく過ごしやすい日もあれば、蒸し暑い日もありますね。これ
からの季節は、熱中症が心配されます。麦茶や清涼飲料水など沢山冷やし、ま
た、瞬間冷却剤や塩飴なども現場用に準備しています。

暑さ対策を取り入れながら、気を付けて作業にあたりたいと思います。

事務所内では見積書や図面作成などをしております。

もうすぐ、住宅新築工事が始まりますので、準備を進めているところです。

今後共、よろしく願いいたします。

7月 旬の食材

今回は『枝豆』です。塩ゆででそのまま頂くのも美味しいですが、ニンニクみじん切りと赤トウガラシをオリーブオイルで炒めて、仕上げに黒コショウをかけてペペロンチーノ風でおつまみにするのもおすすめです。ビールにもご飯にも合う味なので、万能です。

枝豆の栄養素については、タンパク質が豊富で食物繊維、カリウム、ビタミン類、女性やお子様うれしい※葉酸も含まれているそうです。世の中では、スーパーフードと呼ばれダイエットなどに重宝されているようですね。

※葉酸…細胞の分裂や成熟を大きく左右し、体の発育に重要なビタミンです。

令和3年7月5日発行

発行責任者 幸田久美

有限会社 幸田建設

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡 1-1

電話番号 0243-44-3816

<後記>娘の乳歯が抜けました。昔は子供

の歯の健康を願い、下の歯は屋根の上に

上の歯は縁の下になど言い伝えられて

いました。今も昔も子供がすくすくと

育ってほしい気持ちは一緒なのですね。

(ほしの)

※正社員募集 大工1名 設計管理1名 一緒に働いて下さる方募集しております。

脱プラスチックの動き

プラスチックは身近な存在である。それは日常の生活に欠かせないものになっている。そのプラスチックについての報道を時々目にする。その報道はプラスチックごみの問題であったり、ゴミ問題を解消しようとする脱プラスチックの動きだったりする。そこで今回は、プラスチックごみの問題はどのような状況にあるのか、また一方脱プラの動きはどのように進展しているのか、調べながらみてゆきたい。

プラスチックは身のまわりに溢れている。買い物をすれば、商品の容器はプラスチック製であることが多い。台所では、常時ラップが使用される。飲み物はほとんどペットボトルである。従って家庭からゴミとして出される量も多くなる。きちんとゴミステーションに出されればいいが、残念ながら道路脇などに捨てられるのも多く見受けられる。

プラスチックは、石油などを原料として化学的に合成したもので、いわゆる合成樹脂である。自然界で微生物に分解されることがない。自然界に放置されれば、半永久的に貯まりつづけてしまう。家庭から排出されたプラスチックは可燃ゴミ・不燃ゴミ・資源のいずれかで処理される。自治体で扱いが異なるようだ。また、海外に行き場を求めたのも相当あるが、最近ではそれらの国も受け入れを拒み始めている。それは当然であろうと思う。環境省の調べによると、1950年代以降生産されたプラスチックは全世界で83億トン超だが、再利用はごく一部で、60億トン以上がゴミになっているという。驚きである。

では、プラスチックごみで今問題視されている「海洋プラスチックごみ」について触れてみたい。それはどういうことか。環境中に捨てられたプラスチックは、川から海へと至り、波の力や紫外線の影響などで細かく砕けていく。そうして5ミリ以下になったものがマイクロプラスチックという。このマイクロプラスチックが近年魚や海鳥の体内から大量に見つかっているのだ。マイクロプラスチックを餌と間違えて食してしまうのである。では、その魚を人間が食したらどうなるか。食物連鎖を通じて人間の体内にマイクロプラスチックが蓄積するということになる。その懸念が間違いなくある。心配ですめばいいが。最近の報道では、プラスチックごみによる海洋汚染が地球規模で拡大し、生態系への悪影響が懸念されている。海に流出したプラごみは海面や海中を漂い、最後は深海底にたどり着くとみられる。海洋研究開発機構などの調査で、このほど房総半島（千葉県）沖の水深6000mの深海底にも大量のプラごみが集積していることが判明した。水温が低く、紫外線も届かない深海ではプラスチックがほとんど劣化しない。分解もされず、ゴミは貯まる一方になる。プラごみは海洋ゴミの65%を占めると言われている。これまた驚きであるし、憂慮される事態と言わざるを得ない。海に流出するプラスチックごみが多いのは、上位は軒並みアジア諸国で、日本など先進国のプラスチックごみを受け入れたため増えた部分もある。また、最近の報道で分かったのだが、国内で稲作用に使われている肥料で、マイクロプラスチックでコーティングされているものがあり、これが施肥後分解されずに川から海に流出しているのが確認されているというのだ。これには既に改善の動きがある。農業も海洋プラスチックごみに関係していたとは。

このような「海洋プラスチック」問題は、国際的な課題となっており、脱プラスチックに向けて動きが加速しようとしている。我が国でも、昨年7月からレジ袋有料化義務付けの制度がスタートした。エコバックの使用について呼びかけはなされていたが、国はついにレジ袋の有料化に踏み切った。我が家はスーパーに行く時は、大分前からエコバックを持っていくことにしていた。ところがコンビニに行くときはそうでもないもので、車に常時エコバックを備えておくことにした。また脱プラスチックに向けて、家庭でできることはないかと考えてみた。そうしたら、ラップに思い当たった。これの使用を減らすのにどうすればよいか。そしたら知人から情報が入った。「みつろうラップ」がいいというのだ。「みつろう」はミツバチの巣から採れる「ろう（蠟）」のことである。みつろうラップは、みつろ

うを布に染み込ませて作るラップである。みつろうは抗菌・保湿効果がり、食品の鮮度を保ちながら安心して使えるという。みつろうラップは水洗いして、繰り返し使えるのだ。早速作ってみようと思ったのだが、みつろうを手に入れる先を探すうちに沙汰済みになってしまった。これから挑戦しようと思う。蓋（ふた）付きの容器を増やすのもいいかも。

”脱プラ”の前に”プラごみ”を減らす「プラスチックのリサイクル」について見てみたい。リサイクルには2種あって、一つは「材料リサイクル」で、廃プラを別のプラ商品の材料として再利用するものである。リサイクル商品としては、ペレット、農業資材、そして服や靴などに拵がっている。二つ目は「ケミカルリサイクル」で、廃プラを高温で化学的に分解し、再利用するものである。再度プラスチックの原料にしたり、発電用のガスとして利用している。これらも廃プラを減らすうえでは一定の役割を果たしている。サントリーやコカ・コーラでは廃プラにしないで全量を回収し、リサイクルすることになっている。

それでは、”脱プラ”に向かって企業ではどんな動きが見られるのだろうか。先ず話題になったのが、ストローを紙製にする動きである。先陣を切ったのが、アメリカの「マクドナルド」である。国内では、「スターバックスコーヒージャパン」である。国内全店舗で年間2億本のプラストローを削減できるとのこと。次いでレストランチェーンの「すかいらーくグループ」も実施に踏み切った。それからファミリーレストラン、ドリンクバー、カフェなどへ広がりを見せている。また、竹製ストローが登場したり、紙製の弁当容器も考案されている。技術改革により植物由来の製品がさらに出てくることが期待される。そういえば、最近の報道で、二本松市の大七酒造の”脱プラ”の取り組みが紹介されていた。それは酒の運搬時に使用する緩衝材として、これまでプラスチック製のものを使用していたのを段ボール製のものに切り替えることにしたとのこと。今年の夏から実施に移すそうだ。

さらに見てみよう。日清食品では、カップ麺容器を発泡スチロールから自然分解可能な「生分解性プラスチック」に移行している。新たな容器は「バイオマス度81%」を実現しつつ、従来の保湿性や保香性を兼ね備えた作りになっている。また、ネスレ（食品・飲料の製造販売）は、2019年から国内主力商品の”キットカット”のプラスチック製外袋を紙製にする取り組みを始めている。セブンイレブンでは、2019年からすべてのオニギリの包装を植物由来のバイオマスプラスチック配合素材に移行している。

最後に、一つ紹介したいことがある。新潟市の女子高校生たちが同市にある菓子メーカー「亀田製菓」に「プラスチックの過剰包装を止めて欲しい」との署名活動をして、2万近くの名を集めて会社に提出したのである。亀田製菓は、あられやせんべいのメーカーである。これに対して、同社が何と「2030年までに全商品を環境に配慮した包装にする」との方針を示したのである。消費者の声が企業を動かしたのである。消費者の声が買い物の選択・行動が企業を動かした例といえる。生活の中で、一人ひとりが出来ることを考えて行動することが大事だ。自分でもできることと言えば、出かけるときマイボトルを持参することにしよう。飲みたくなったら、ペットボトル飲料を買わないでも済む。今回はこの辺で終わる。